

思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童の育成 ～対話的な学びの工夫を通して～

那覇市立城西小学校教諭 仲里 礼子

〈研究の概要〉

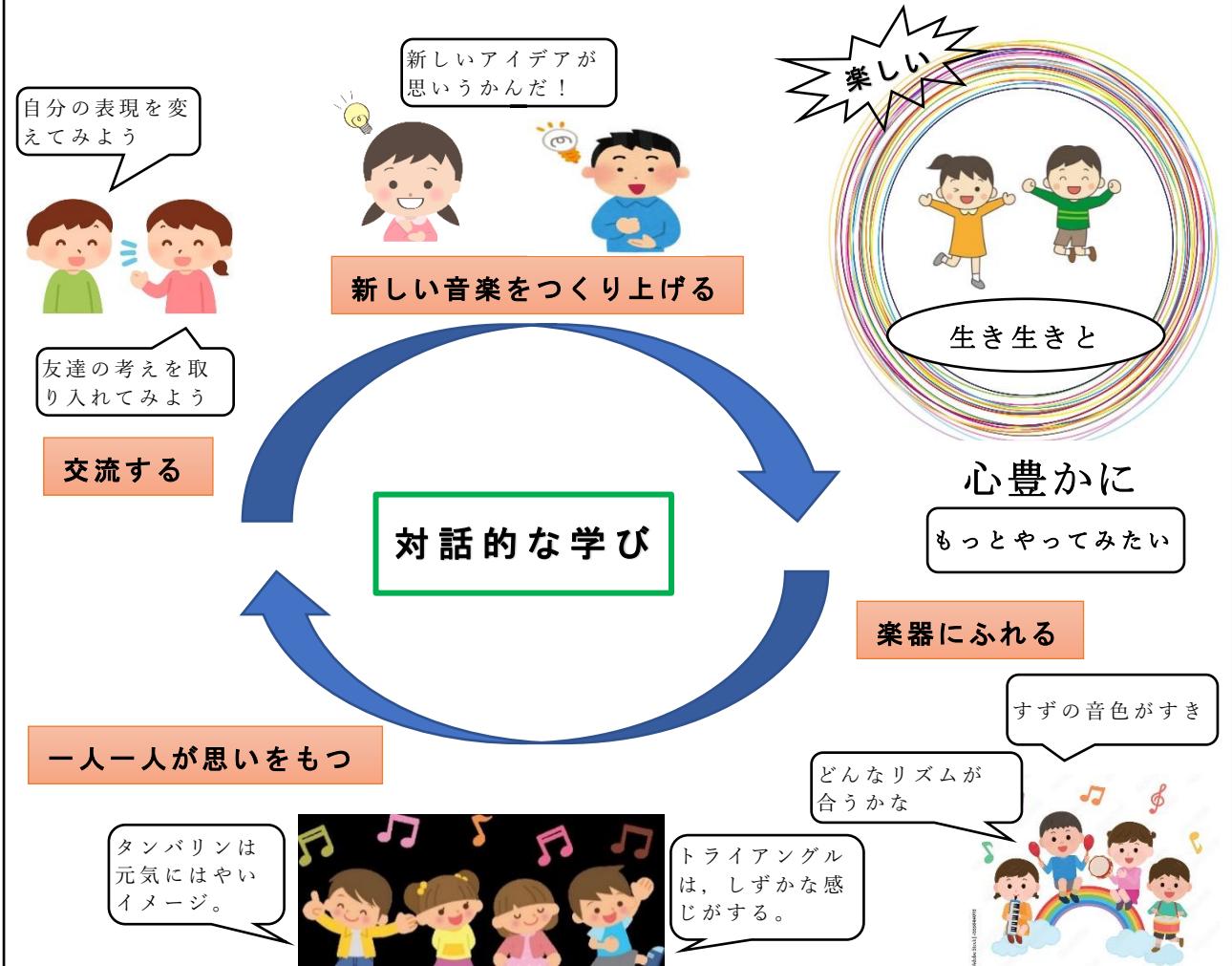
児童が協働的に学ぶためには、対話的な学びを活性化させる工夫が必要だと考えた。

本研究では、音楽づくりの題材を通して、二つの手立てを基に、有効性を検証した。第一に、テーマを与えて音楽に触れさせることで、児童はイメージを膨らませてテーマを考え、自分なりの思いをもつことができた。第二に、協働して「新たな表現をつくりあげる」ために、互いの考えを聴き合い、思いを共有できるワークシートを活用した。言葉をより豊かに表現できるよう「音楽を形づくっている要素」の学びも大事にした。児童は互いの考えを聴き合い、思いを伝え合い新たな音楽表現をつくり上げることができた。

のことから、対話的な学びの工夫を通して、思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童を育むことができたと考える。

〈研究のイメージ〉

思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童の育成



目 次

I テーマ設定理由	41
II 研究目標	41
III 研究仮説	42
1 基本仮説	
2 作業仮説 (1) (2)	
IV 研究構想図	42
V 研究内容	42
1 「協働的な学び」とは	
2 音楽科における協働的な学び	
3 対話的な学びの工夫	
(1) 思いをもたせる	
①音楽に触れ思いをもたせる	
② テーマを選ばせ思いをもたせる	
(2) 協働して「新たな表現をつくりあげる」	
①思いや考えを伝えるためのワークシートの活用	
②音楽を形づくっている要素	
VI 授業実践(第2学年)	45
1 題材の概要	
2 単元の指導と評価の計画(全6時間)	
3 本時の学習指導について	
(1)本時の目標	
(2)授業仮説	
(3)本時の展開(第4時)	
VII 結果と考察	46
1 作業仮説(1)の検証 【結果】【考察】	
2 作業仮説(2)の検証 【結果】【考察】	
VIII 成果と課題	50
1 成果	
2 課題	
《主な参考文献》	

思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童の育成 ～対話的な学びの工夫を通して～

那覇市立城西小学校教諭 仲里 礼子

I 研究テーマ設定の理由

学習指導要領総則第1章総説では「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」が必要とされ、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進が求められている。また音楽科の課題としては、中央教育審議会答申(2015)において「他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと」が指摘されている。それらを踏まえて学習においては、言語活動の充実を図る観点から「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること」が配慮事項として示された。友達と言葉を交えて協働的に学ぶことで、表現に対する思いや、曲や演奏の楽しさを共有したり、共感したりすることができるを考える。

本学級の児童アンケートによると、「友達に思ったことや感じたことを伝えることはできますか」や、「新しいアイデアや工夫したことを取り入れて歌ったり、演奏したりしていますか」の問い合わせに、肯定的な回答は7割に留まり、3割以上の児童は自分の考えた思いを伝えたり工夫したりすることに苦手意識を感じていることが分かった。

自身の実践を振り返ると、ペアやグループ学習を取り入れることで、児童が音楽活動を楽しむ姿は見られたが、そのよさについて自分の思いを伝えられていなかった。また互いの演奏を聞き合う学習は取り入れてきたが、児童同士が感想を述べ合うだけに留まり、互いの考えを共有し新たな音楽を作り上げる表現活動には至らなかった。

そこで、音楽に触れる時間を充実させ、自分の思いをもたせる活動を取り入れることで自分の考えを支えにして伝えられるようにしていく。次に互いの考えを聴き合い、思いを共有できるワークシートを活用させることで、新たな気づきから新しい音楽表現を作り上げる活動につなげていく。伝えたい言葉をより豊かに表現させ、互いの思いを共有できるようにするために「音楽を形づくっている要素」の学びも大事にしていく。

本研究では、音楽について考えるきっかけと時間を与え、思考を可視化するワークシートを活用させることで思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童を育成するために、対話的な学びの工夫を実践的に研究する。

III 研究仮説

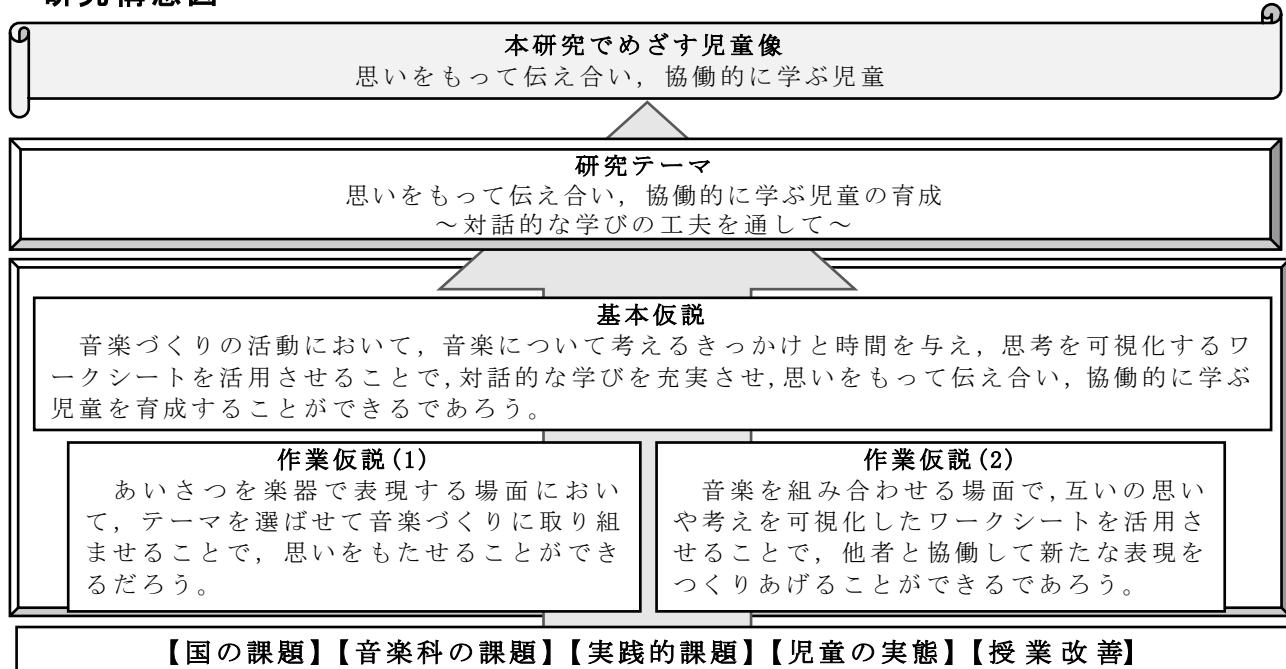
1 基本仮説

音楽づくりの活動において、音楽について考えるきっかけと時間を与え、思考を可視化するワークシートを活用させることで、対話的な学びを充実させ、思いをもって伝え合い、協働的に学ぶ児童を育成することができるであろう。

2 作業仮説

- (1) あいさつを楽器で表現する場面において、テーマを選ばせて音楽づくりに取り組ませることで、思いをもたせることができるだろう。
- (2) 音楽を組み合わせる場面で、互いの思いや考えを可視化したワークシートを活用させることで、他者と協働して新たな表現をつくりあげることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 「協働的な学び」とは

「協働」とは、辞書によれば「同じ目的のために、協力して働くこと」(『大辞林三版』)である。同じ目的に向かって行動すれば協働していることとして捉えられる。一方、小学校学習指導要領総則第1章総説(平29年)では、「他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと」が求められており学校教育全般において「協働的な学び」への転換が示されている。仲間と力を合わせて同じ方向に向かって解決していくために、一人一人が思いをもって伝え合い、互いの考えを組み合わせながら、新たな学びを生み出せる児童を育成することが目指されている。

本研究では、思いをもたせるための時間や、共有し共感して新たな表現をつくりあげる対話的な学びの工夫を通して、協働的な学びを取り入れた指導をしていきたい。

2 音楽科における協働的な学び

小学校学習指導要領解説音楽編（以下解説音楽編）第3章第1節 第1学年及び第2学年の目標と内容 1目標には「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標として、「(2)音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようになる。」と示されている。自分の思いや考えをもつことや、表現する楽しさを味わって聴く活動を取り入れていくことが、他者と協働する学びに繋がると考える。

志民（2018）は、音楽科の学習の特質として、「子供が互いに表している『音や音楽』、また範唱や範奏などにしっかりと耳を傾け、そこから感じ取った音や想像したことなどを言葉で交流させたり、考えたことや工夫したことなどを『音や音楽』そのもので伝え合ったりすることが重要である。」とし、「教師の働きかけによって音や音楽によるコミュニケーションを活性化し、そこでイメージしたことや心を動かされたことなどについて言葉で伝え合う場面を適切に位置付けることが、音楽科の学びを、実感を伴ったものにするのである。」と述べており、実践を通して、コミュニケーションを活性化させ、言葉で伝え合う場面を取り入ることで、協働的な学びを充実させる研究を行う。

3 対話的な学びの工夫

(1) 思いをもたせる

① 音楽に触れ思いをもたせる

解説音楽編第3章第1節 2内容A(3)ア音楽づくりの活動を通して「(イ)どのように音を音楽していくかについて思いをもつこと」ができるようになることをねらいとしている。思いをもつことで対話を活発にし、互いに思いをもって協働的に学ぶことが深い学びにつながると考える。

本研究では、音楽的な特徴を知り、楽器にたっぷり触れる時間を充実させる。色々な表現の仕方を試す経験を繰り返すことで、音色やリズムについて共有したり共感したりする活動に取り組みたい。また教師が楽器の音色について問い合わせ、どのようなイメージで楽器を鳴らしたいか考える手立てを行う。自己の感性を磨き、自分の思いを膨らませ思いをもって表現できる活動を研究に入れていく。

② テーマを選ばせ思いをもたせる

解説音楽編第3章第1節 2内容A(3)ア音楽づくりの活動を通して「ウ 発想を生かした表現や、思いにあった表現をする」指導が求められている。豊かな表現をするには、思いをもって音楽づくりをすることが必要だと考える。テーマについて児童が色々出し合って、自分が選んだテーマに沿って音楽づくりに進むことが重要だと考える。児童にテーマを選ばせることで自分たちの表現にあった音楽づくりをするであろう。

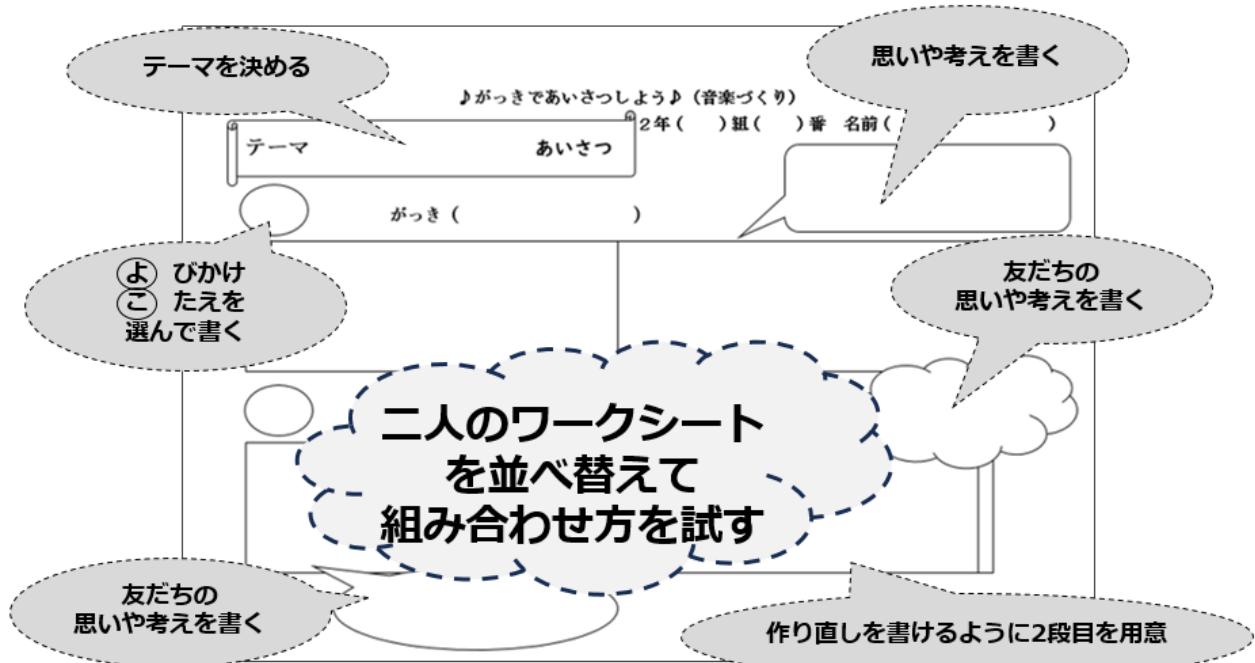
本研究では、あいさつの場面に限定することで、どの楽器やリズムが自分の選んだテーマに合うか、思いにあった表現に向かって取り組む活動を取り入れる。思いをもたせるきっかけとして、あいさつを楽器で表現する場面において、テーマを考え選ばせて取り組む学びを重点的に研究する。

(2) 協働して「新たな表現をつくりあげる」

① 思いや考えを伝えるためのワークシートの活用

音楽づくりの活動については、「児童がいろいろな表現の仕方を試しながら、音楽をつくる楽しさを味わうことができるよう指導すること」と示されており、思いを伝えることと音を試すことを繰り返しながら、新たな表現をつくりあげる指導をしていきたい。

解説音楽編第4章 2内容の取扱いと指導上の配慮事項として「つくった音楽を互いに共有し、思いや意図を伝え合う上で、つくった音楽を記録することは有効である。」と示されている。そこでワークシートを作成し、2人のリズムを合わせる場面に活用させる(図1)。ワークシートを用いた新たな表現をつくりあげる活動①つくりたい音楽のテーマを決める。②各自でテーマに合った楽器とリズムを考える。③互いの考えをもちより組み合わせる。④決めた楽器とリズムを組み合わせ、試してみて必要があれば見直す。



本研究では、思考したことが言語化できるふきだしを効果的に活用できるワークシートをもとに、思いや考えを共有し楽器やリズムで交流させ伝え合うことで、「新たな表現をつくりあげる」指導をしていきたい。

② 音楽を形づくっている要素

解説音楽編第3章各学年の目標及び内容〔共通事項〕(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導事項として「ア 音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。」とあり要素を活用することで深い学びにつなげることができる。児童が感じた思いを言語化し、理由を付け足して相手に伝えるためには、音楽科の知識を取り入れつつ音楽的要素も効果的に用いて、言語活動を充実させる活動を目指したい。

本研究では、伝えたい言葉をより豊かに表現させ、互いの思いを共有できるようにするために「音楽を形づくっている要素」の学びも大事に、実感を伴いながら対話的な学びを深める児童の育成に努める。常時活動でも児童の主体性を大切に、児童が楽しく互いの表現のよさを感じ取る経験を積み重ね、新たな表現をつくりあげる活動に生かせるよう音楽に触れる学びを何度も取り入れていく。

VI 授業実践(第2学年)

1 題材の概要

題材名	いろいろながっきの音をさがそう
内容のまとめり	第2学年 A 表現(1)歌唱 (2)器楽 (3)音づくり 及び [共通事項] (1) B 鑑賞 及び [共通事項] (1)
題材の目標	(1)(知識及び技能) 音色やリズムなどと曲想との関わりに気づき、楽器の音色に気を付けて演奏したり、呼びかけとこたえを用いてリズムをつくったりする技能を身に付ける。 (2)(思考力、判断力、表現力等) 楽器の音色やリズムの違いが生み出すよさや面白さを見いだして聴いたり、楽器やリズムの組み合わせ方にについて思いをもったりする。 (3)(学びに向かう力、人間性等) 音色とその組み合わせのよさや面白さを見いだして聴いたり、それらの特徴を生かして表現したりする学習を楽しみ、楽器の音色への興味・関心を広げる。

2 単元の指導と評価の計画(全6時間)

時間	表現領域活動分野	学習活動(内容) ・常時活動 ●本時の学習	対話的な学びの工夫 ①思いをもたせる。 ②協働して新たな表現をつくりあげる。	評価方法		
				知	思	態
1	鑑賞	・おまつりの音楽で習ったリズムを復習し、楽しい雰囲気づくりをする。	①表現する楽しさを味わって仲間と取り組む。	○		○
		●打楽器の音色やリズムに気を付けて、曲想を感じ取って聴く。(音色)	①「メッセージ」の歌詞にあるあいさつで、呼びかけとこたえを意識して歌う。 ①音がどのように聴こえたか、言葉で伝える。			
2	鑑賞	・習った楽器あてクイズとリズムの復習をする。	①楽器の特徴を知り、面白さを感じる。	○	○	
		●音楽の組み合わせに気づきながら、曲全体を味わって聴く	①「呼びかけとこたえ」や「音の重なり」を探しながら、意識して聴く。			
3	音楽づくり	・習った4種類のリズムまねっこリレーをする。 ・打楽器の名前を確認する。	①リズムがもつ特徴や、色々な表現の仕方を感じる。	○		
		●楽器とその音色の特徴に合うリズムを選び、即興的に表現する。(音色、リズム)	①ペアでテーマを決め、各自でテーマに合う楽器・リズムを選ぶ。 ①吹き出しに、自分の思いや考えを書く。			
4	【本時】音楽づくり	・同時に3つの打楽器を鳴らし、音あてクイズをする。	①楽器の特徴や音色を感じる。	○		
		●呼びかけとこたえを使って、友だちとリズム遊びをして発表する。	①テーマのイメージを基に、ペアで音楽づくりをする。 ②ワークシートを活用して、ペアでアイデアを出し合う。			
5	器楽	・リズムまねっこリレーで復習する。	①リズムの組み合わせによって、表現のよさを感じる。	○		○
		●曲の感じをつかんで歌ったり、リズム打ちをしたりする。(音色、リズム)	①大きなかぼちゃを連想させ、どうしたら運べるか考える。 ②楽器やリズムに合わせた工夫を考える。			
6	器楽	・リズムリレーの速さをかえて、拍を知る。	①速度によってイメージが変化することを感じる。	○	○	
		●音色の特徴を生かして、音の組み合わせや重ね方を工夫する。(音の重なり) ●楽器の音色の違いに気を付けながら歌に合わせて演奏して、聴き合う。	①②7人グループで音の重なりを工夫し、協力して練習して発表する。			

3 本時の学習指導について

(1) 本時の目標

音楽の仕組み（よびかけとこたえ）を生かし、音楽を特徴づけている要素（音色、リズム、強弱）を工夫して、相手に思いを伝え、がっつきの音の組み合わせを楽しむことができる。

(2) 授業仮説

互いに選んだリズムを組み合わせる場面で、ペアで交流し思考の過程を可視化したワークシートを活用することで、協働的に学び合うことができるであろう。

(3) 本時の展開（4／6時）

段階	学習活動	教師の働きかけ（□）	評価規準 【評価項目】
導入 7分	1 常時活動（音あそび）を行う。 打楽器の音あてクイズやリズムあそびを取り入れる。	□意欲的に復習できる雰囲気づくりをする。 □音の出しが方や打つ場所によっても音色が変化することや速さの変化によっても違いが出ることに気付かせる。	
展開 30分	2 めあて (1)自分がつくったリズムを使って、ペアで呼びかけとこたえを合わせてみる。 お互いに聴き合い、ペアで互いに思いを伝え一緒につくろう。 (2)話しあったことを取り入れ、もう一度見直してもよい。 3 楽器でいさつあてクイズをしよう（全体で発表する）。	めあて テーマに合わせて「よびかけ」と「こたえ」を組み合わせ、はっぴょうしよう。 □ワークシートの活用 □つくったリズムを自分なりの思いが伝えられるよう音楽表現の工夫（音色、リズム、強弱、音符、休符、よびかけとこたえ）を確認する。 □ペアで練習しお話しているように互いの顔を見合させて演奏するように声かけをする。 □聴く側は、工夫されていたことや「呼びかけやこたえ」の面白かったこと、自分たちのリズムや楽器との違いを意識するように声かけをする。 □テーマの正解を聴いた後、もう一度いさつのテーマを想像してよく聴くよう促す。	打楽器の音色やリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出される面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。 (思・判・表)
終末 8分	4 まとめ 5 振り返り	まとめ テーマに合わせてつくると、色いろな音楽づくりができる、音楽が広がる。 □自分の活動を振り返られるよう音楽的要素の視点を提示。 □次時は今日の学習を生かして7人グループになり、大きな音楽づくりをすること知らせ意欲を高める。	

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

いさつを楽器で表現する場面において、テーマを選ばせて取り組ませることで、思いをもたせることができるだろう。

【結果】

前時までたっぷり楽器に触れさせ、音の特徴や面白さについて気付いたことを、全体で出し合った。児童は演奏の仕方を身に付けると共に、音のイメージを膨らませていた（図2）。

前時では、めあてを「ペアでテーマに合わせて音楽づくりをしよう」とし、どんな気持ちのいさつにするか考え、いさつの場面を考えた。出てきたテーマをみんなで見合って、ペアでいさ

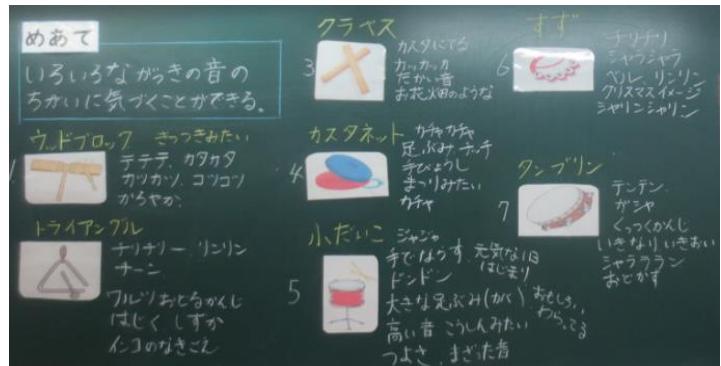


図2 聴いた音の感じを出し合う

つのテーマを選ばせ決めた（表1）。児童はテーマと楽器を結びつけながらテーマに合わせて楽器を試し、リズムを考えていた。本時では、ペアで選んだあいさつのテーマに沿うように、「よびかけとこたえ」や「音色」を意識して、イメージに合う楽器やリズムの組み合わせを考え音楽づくりに取り組んでいた。

A児B児は、ペア学習の中でカスタネットからすずへ楽器を変更した。すずの鳴らし方をかえたりペアで、ちょっと遅くすることを考え、速さの工夫をして練習する姿が見られ、思いを表現することができた（表2）。

図3は、「さびしいそつえんしき」をイメージに選んで音楽づくりをしていた児童のワークシートである。吹き出しに、「さびしくてかなしい音にした理由は、やさしい音だと思ったからです」と、自分の考えを記述していた。この児童は、音楽づくりの途中で「明るく楽しい感じ」にしたいと思いつき、ペアと意見がぶつかり音楽づくりが進まなくなったりした場面が見られた。そのような時にも、ペアで思いを決めた時の思いを再確認することで、音楽をつくり上げることができた。互いの楽器とリズムの組み合わせを再確認し「さびしいそつえんしき」というテーマの基に音楽をつくり上げる

ことができた。発表の場面では次のようなやりとりが見られた（表3）。

ペアで決めたテーマに沿った音楽づくりをすることで、思いをもって演奏することができ聴く側の児童にもその思いを言葉にして伝えることができた。振り返りでは、「テーマをイメージすると楽しかったし面白かった」「クリスマスっぽ

表1 あいさつの場面のイメージ

- ・学習発表会の時・プレゼントを開ける時、もらった時
- ・ほめられた時・寂しい卒園式・おついかいに行く時
- ・嬉しい遠足の日・クリスマスプレゼント

表2 楽器を変更したペアの振り返り

テーマ 鮮やかなお花畠に行った時のあいさつ

A児…楽器選びでB児さんはカスタネットと言っていましたが音を確認してすばりしてテンポをかえたのがよいと思う。ちょっと遅くしてかんじをだしました。
B児…すごく音を気にして楽器の鳴らし方の使い分けをしてみた。

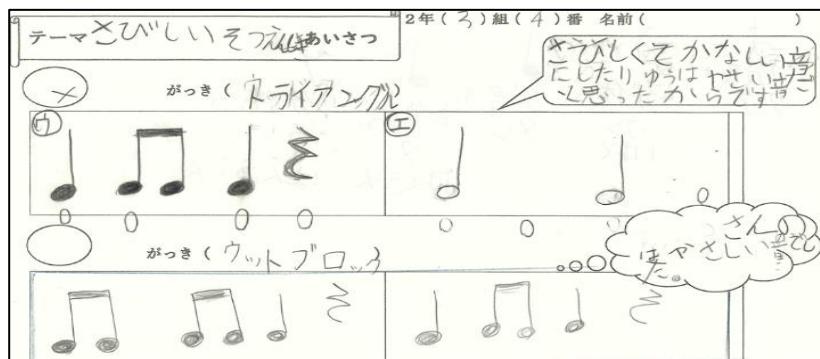


図3 テーマに沿った思いが書き込まれたワークシート

表3 発表場面でのやりとり（授業記録）

T：どんなテーマでしょうか？

C1（聴く側）：静かな海にいる
C2（聴く側）：夜、静かな感じ

T：トライアングルはどんな感じがしますか？

C3（演奏者）：ヒントは、悲しい感じ
C4（聴く側）：涙を流すとき
C3（演奏者）：おしい！

T：正解をどうぞ

C3（演奏者）：卒園式のさびしい時のあいさつ
C（聴く側）：おーそうだったんだ。
へえ～そうなんだね。

くてよかったですし、遊びかけとこたえがうまくいってよかったです」「つくってみたらほんとうに『学しゅうはっぴょう会』みたいにひけてよかったです」等の感想が見られた。

児童アンケートから、「友達が話していることを聞くことができますか」の問いに、「とてもできる」「できる」と肯定的な回答の割合が、70%から96%になり検証前と比較すると27ポイント増えた(図4)。また「友達に思ったことや感じたことを伝えることはできますか」の問いにも、肯定的な回答の割合が、67%から74%と7ポイント増えた(図5)。音楽の学習の振り返りでは、友達やペアで聞き合いながら練習する良さについて「ペアだと良いアイデアが思いつくし色々聞ける」「リズムや音色を相談できるし速さも考えられる」「友達と会話すると慣れてやりやすく楽器の音も覚えやすい」「ペアだと話しやすいし自分の意見もいいやすい」等の感想が見られた。

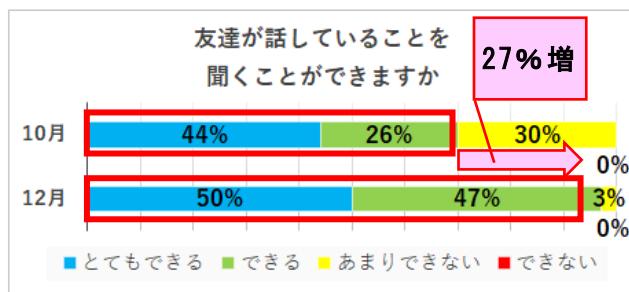


図4 児童アンケート①

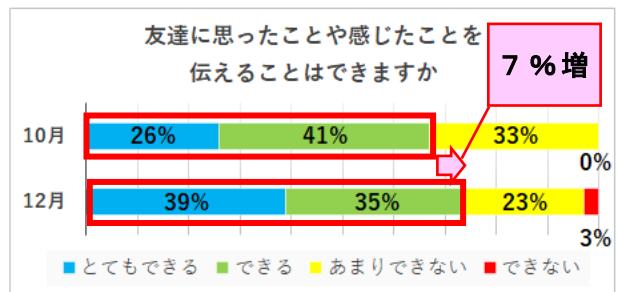


図5 児童アンケート②

【考察】

児童は、たっぷり楽器に触れることで、様々な音楽表現を知り、教師が楽器の音色について問い合わせ、どのようなイメージで楽器を鳴らしたいか考えさせたことで、イメージをたくさん膨らませることができた。また、幾つか出し合った中から、音楽づくりをしてみたいテーマを自分達で決定したことで、それに合った楽器やリズムを探し、思いや考えをもって音楽づくりに取り組むことができた。

イメージに合う楽器を考える場面や、話し合いが行き詰まりそうな場面でも、自分の思いを言葉で伝えられ、一人一人の思いがあったからこそ、新たな表現をつくりあげることができた。また発表場面で楽器による発表だけではなく、思いを言葉にして聴いている人に伝えることもできたと考える。

聞くことについてのアンケートの数値が伸びた結果から、一人一人が思いや考えをもつたことで、互いの思いを聞き合うことへの意識が高まったと考える。一方、伝えることのアンケートでは、肯定的な回答をした児童が増えているものの、未だに2割以上の児童が伝えることへの苦手意識をもっている。今後は、伝えることの大切さや楽しさを実感できる授業づくりが求められる。

以上のことから楽器に触れる時間を与え、テーマを選ばせて音楽づくりに取り組まることは、思いをもたせることに有効であり、協働的に学びを深める姿につなげができると考える。

2 作業仮説(2)の検証

音楽を組み合わせる場面で、互いの思いや考えを可視化したワークシートを活用させることで、他者と協働して新たな表現をつくりあげができるであろう。

【結果】

2人で決めたテーマに沿って、各自で考えた楽器やリズムについて記入したワークシートをもちよって音楽づくりをした。前時に10分程時間を与え、書き込んだものをもちよさせたが、全て児童がワークシートを記入し、本当に臨んでいた。思いや考えを記入する吹き出しには、楽器についての記述があった(表4)。音楽要素に触れた記述も見られ、学んだことを取り入れて、思いや考えを書いていた(表5)。

またテーマに結びつけてつくりたい音楽を表現している児童もいた(表6)。

本時では、2人のワークシートを見合って感じ取ったり、リズムや受けたイメージをワークシートの吹き出しを活用して交流した。自分のワークシートの吹き出しを活用し、友達の感想を書いてもらい、その後リズムを組み合わせる活動に入った(図6)。児童の半数以上は、友達へのコメントを書き込んで交流していた。リズムを組み合わせる場面では、2人のワークシートを並べ変えて、リズムを試している姿が見られた(図7)。13組全てのペアが、新たな音楽をつくることができた。

またワークシートの2段目を活用して、新たなリズムにつくり直しているペアもみられた(図8)。

友達と音楽をつくり上げた感想として2人で音楽づくりをすることの良さを感じている児童の振り返りである(図9)。

児童アンケートから「新しいアイデアや工夫したことを取り入れて演奏していますか」の問い合わせに「とてもできる」「できる」と肯定的な回答した児童は77%から86%になり、検証前より9ポイント増えた(図10)

表4 楽器について

- ・トライアングル…2分音符は響いてきれいな音がでる。
- ・クラペス…速いリズムに合う音だと思う。
- ・ウッドブロック…楽しく細かいリズムでたたいた音。

表5 要素について

- ・8分音符を使いたい。
- ・強い音から弱い音にしたい。
- ・なめらかで弱くしたい。

表6 テーマについて

- ・ハキハキとした音・優しくてコトコト・わくわくのあいさつをはねるようにつくりたい
- ・かねのイメージややわらかく
- ・強くて楽しい音楽

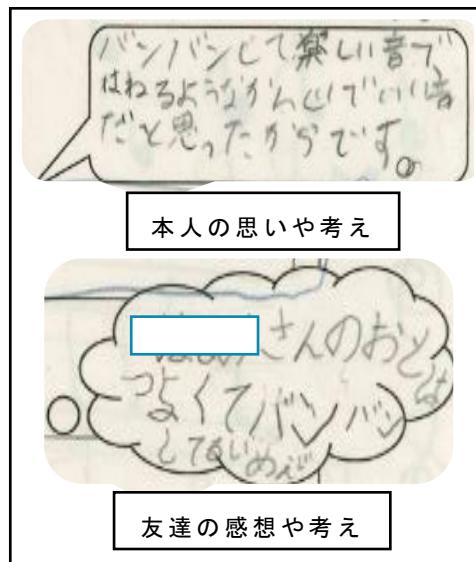


図6 ペアで考えを共有している



図7 2枚並べてペアで試す



図8 2段目記入の様子

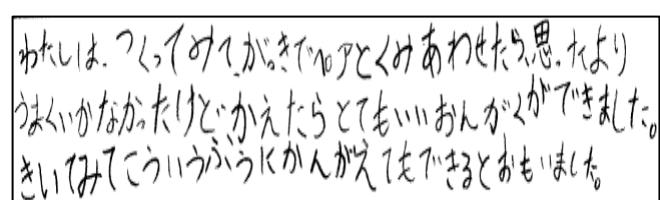
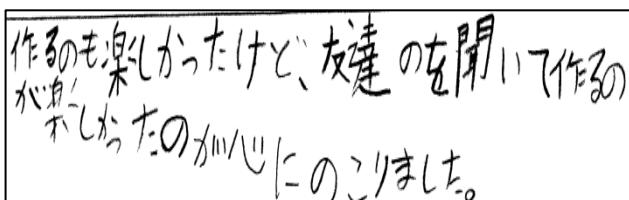


図9 ペア児童の振り返り

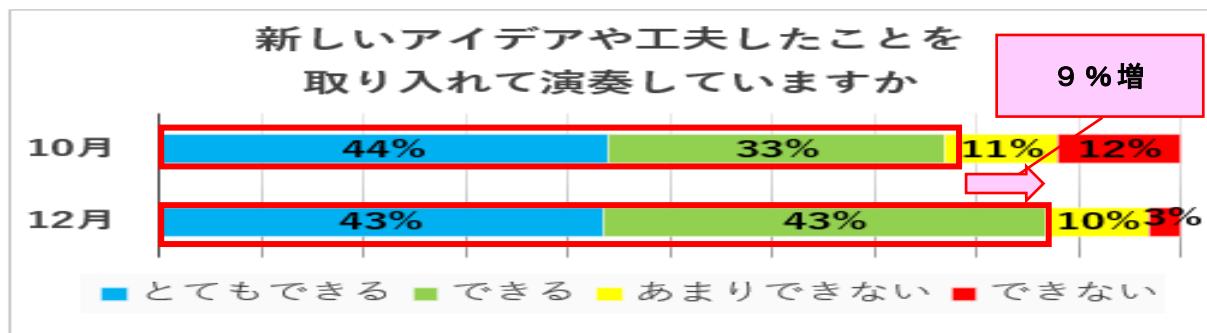


図 10 児童アンケート③

【考察】

思いや考えを可視化したワークシートを活用することで、楽器の特徴、選んだリズム、音楽を形づくっている要素を用いて言語活動を通して伝えたい言葉をより豊かに表現することができた。また自分の思いや考えを、文字にして記録することで自信をもって相手に伝えることができ、互いにつくった音楽についての理解が深まった。

組み合わせる場面では、イメージの共有を図る難しさを感じつつ、ワークシートを活用し様々な組み合わせを試すことで、新しい音楽をつくり上げる楽しさやリズミカルに組み合わせるよさを感じることができた。

以上のことから思考の過程を可視化したワークシートを活用することは、音楽を組み合わせる場面で、他者と協働して新たな音楽をつくり上げる手立てとして有効であった。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 一人一人が思いや考えをもって、協働的な学びに参加することで深い学びにつなげることができた。
- (2) 互いの思いや考えを可視化したワークシートを活用させることで、対話的な学びを活性化させ、新たな表現をつくりあげることができた。

2 課題

- (1) 伝えることに苦手意識をもっている児童がいるため、伝える必要性や楽しさを意識した授業づくりを進めていく必要がある。
- (2) 一人一人に思いや考えをもたせて参加させる協働的な学びを、他の領域や教科にも取り入れ、広げていく必要がある。

《主な参考文献》

- 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 文部科学省 東洋館出版社 2018
 『初等教育資料7月号』論説「他者と協働する音楽科の学習指導」 志民一成 東洋館出版社 2018
 『「常時活動」を位置づけた小学校音楽の新授業プラン』 近藤 真子・岩井 智宏 明治図書 2021